

小規模事業者

経済動向調査報告書

<常陸大宮市>

2025年10月～12月期

常陸大宮市商工会

1. 目的

常陸大宮市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売・卸売業及びサービス業の小規模事業者から計 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

3. 調査事業者

業種 売上規模	製造業	建設業	小売・卸売業	サービス業	合計
~1,000 万円	1 社	0 社	3 社	1 社	5 社
~3,000 万円	1 社	1 社	1 社	2 社	5 社
~1 億円	0 社	1 社	0 社	1 社	2 社
~3 億円	0 社	2 社	1 社	0 社	3 社
合計	2 社	4 社	5 社	4 社	15 社

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、利用客数、仕入単価、在庫数、採算（経常利益）、従業員、外部人材、資金繰り及び景況感を聴取し、DI 値を業種別・売上規模別に比較。
- ② 設備投資状況の調査。
- ③ 現在認識している問題点・経営課題について業種別・売上規模別を調査。

DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

I. DI 分析

表 1 : 2025 年 10 月～12 月の DI 値 (業種別)

	合計	製造業	建設業	小売・卸売業	サービス業
売上高	-6.7%	0.0%	-50.0%	0.0%	25.0%
販売単価	-6.7%	0.0%	-50.0%	20.0%	0.0%
利用客数	-6.7%	0.0%	-50.0%	0.0%	25.0%
仕入単価	-66.7%	0.0%	-75.0%	-80.0%	-75.0%
在庫数	0.0%	0.0%	25.0%	-20.0%	0.0%
経常利益	-26.7%	0.0%	-50.0%	-40.0%	0.0%
従業員	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
外部人材	-6.7%	0.0%	-25.0%	0.0%	0.0%
資金繰り	-46.7%	0.0%	-50.0%	-60.0%	-50.0%
景況感	-46.7%	-50.0%	-50.0%	-60.0%	-25.0%

表 2 : 2025 年 10 月～12 月の DI 値 (売上規模別)

	合計	～1千万円	～3千万円	～1億円	～3億円
売上高	-6.7%	20.0%	-20.0%	50.0%	-66.7%
販売単価	-6.7%	0.0%	-40.0%	50.0%	0.0%
利用客数	-6.7%	20.0%	-20.0%	50.0%	-66.7%
仕入単価	-66.7%	-80.0%	-60.0%	-100.0%	-33.3%
在庫数	0.0%	-20.0%	-20.0%	0.0%	66.7%
経常利益	-26.7%	-60.0%	0.0%	0.0%	-33.3%
従業員	6.7%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
外部人材	-6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	-33.3%
資金繰り	-46.7%	-80.0%	-40.0%	0.0%	-33.3%
景況感	-46.7%	-100.0%	-20.0%	0.0%	-33.3%

- 全体的には、前回 (2025 年 7 月～9 月) 調査に比べ、落ち着きを取り戻している様子が窺える。資金繰りや景況感こそまだ著しく低迷しているが、売上高、経常利益などは、前回までの極端な悪化からは解放されている。
- 特に、前回厳しい状況に追い込まれたサービス業において、大きく改善されている様子が窺える。そのため、前回の低迷が一時的なものとも見ることができる。
- 小売・卸売業においては、売上高の低下が一旦落ち着いている。一方で、仕入単価の高騰はさらに厳しくなっているため、経常利益の改善にまでは至っていない。
- 売上規模別では、これまで低調だった 1 千万円以下の企業が持ち直しつつあり、それが全体を引き上げている。ただし、資金繰りや景況感についてはさらに悪化しており、まだ安心できない状況と見ることができる。特に、仕入単価の長引く高騰が悪影響を及ぼしていると推測できる。

II. 課題意識調査

図1 2025年10月～12月の課題意識（業種別）

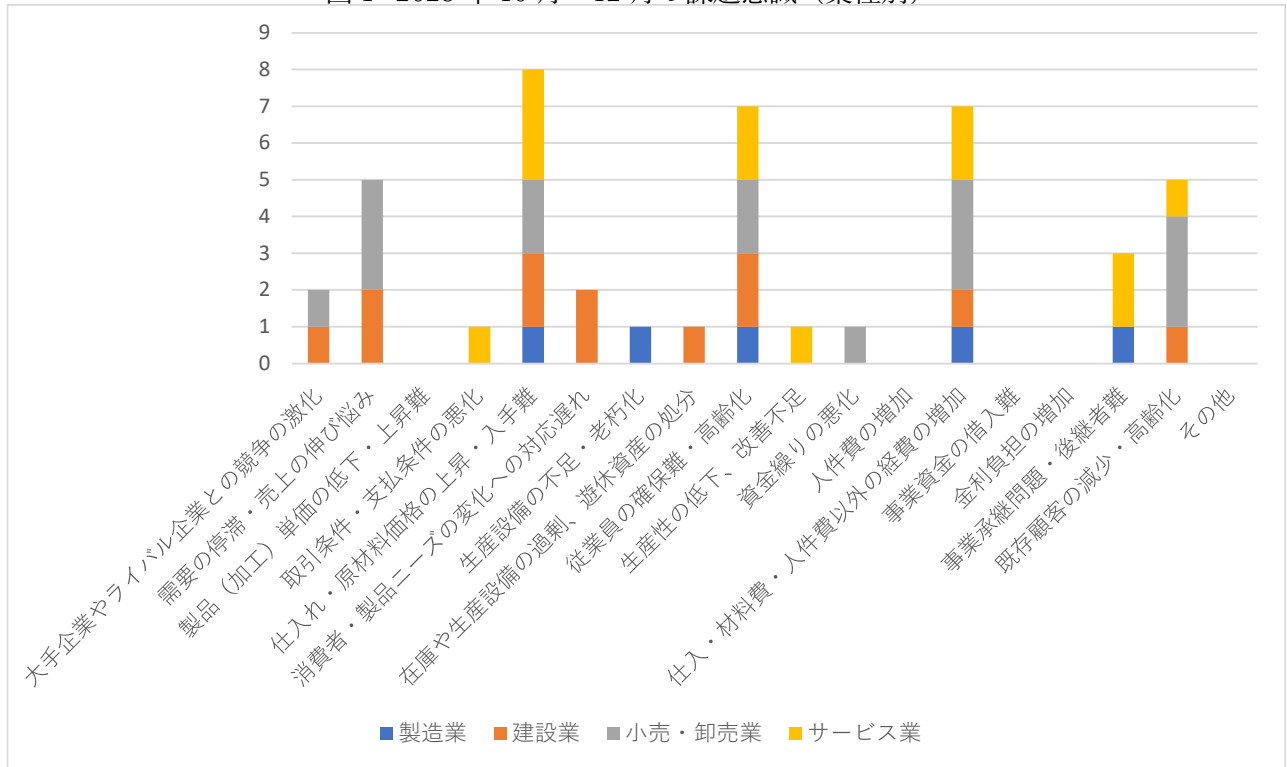
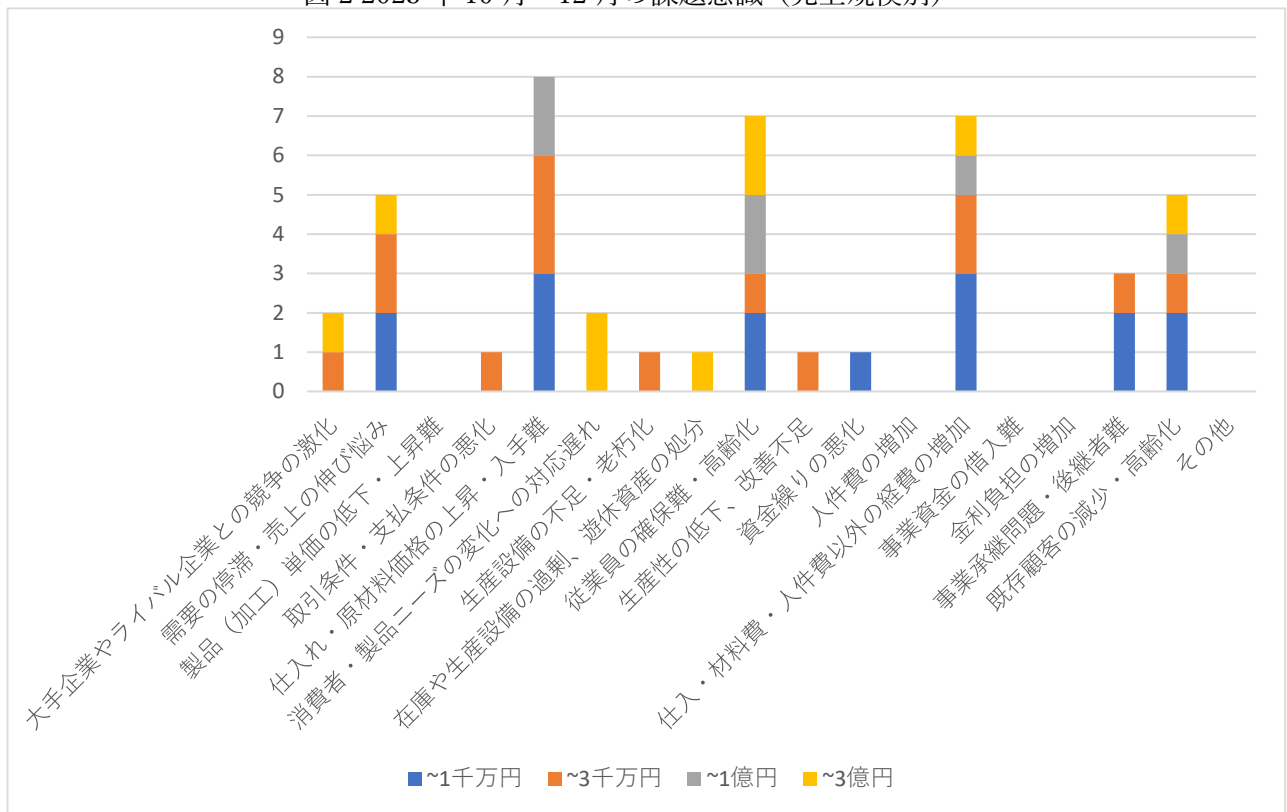


図2 2025年10月～12月の課題意識（売上規模別）



- これまで多くの企業を苦しめてきた仕入れ・原材料価格の上昇・入手難が若干ながら減少している。特に、小売・卸売業で減少している。また、売上規模1千万円以下の小規模企業で減少している。ただし、DI値分析ではいずれも逆に仕入単価が著しく悪化しており、仕入価格は相変わらず高騰しているが、それ以上に他の問題が顕在化している結果と分析できる。
- サービス業において、需要の停滞・売上の伸び悩みが減少している。DI値分析の結果からも売上高の改善が見られる。
- 今回、事業承継問題・後継者難、既存顧客の減少・高齢化を問題視する企業が増加しているが、特に売上規模1千万円以下の小規模企業で増えている。小規模企業において、高齢化の影響が顕在化している様子が窺える。

Ⅲ. 設備投資の状況

- 2025年10月～12月にかけて設備投資した企業は、今回は15件中1件のみであった。ただし、毎回連続して設備投資は続いており、やはり少しずつ投資の気運が高まっていると評価できる。
- 投資の内容は、OA機器及び車両運搬具であった。

以上